

コンフィグレーション

概要・基本設定	2
設定の保存と復元	2
ご購入時の状態に戻す	2
コマンドリファレンス編	4
機能別コマンド索引	4
SAVE	5
SHOW CONFIG	6

概要・基本設定

本製品では、コマンド入力によって設定した内容をテキスト形式のスク립トファイルとして保存できます。

設定の保存と復元

コンソールなどから設定した内容はメモリー上にあるため、システムを再起動すると消えてしまいます。次回以降も同じ設定を使いたい場合は、設定内容をスク립トファイルに保存する必要があります。

メモリー上の設定内容をファイルに保存するには、SAVE コマンド（5 ページ）を使います。自動的に「config.cfg」ファイルが作成されます。「config.cfg」ファイルが存在しない場合は新規に作成され、すでに存在する場合は上書きされます。

SAVE ↓

本コマンドで作成したファイルには、設定内容がスク립ト形式で保存されます。ただし、スク립トの内容は一定の基準にしたがった書式に変換されているため、コマンドラインで入力したものとまったく同じではありません（例えば、長い行は ADD と SET のように複数行に分けて保存されます）。しかし、保存されている情報は同じです。

設定をファイルに保存すれば、再起動時に自動復元されます。

現在の起動スク립トを確認するには、オプションなしで SHOW CONFIG コマンド（6 ページ）を実行します。

SHOW CONFIG ↓

現在のメモリー上の設定内容を確認するには、SHOW CONFIG コマンド（6 ページ）に DYNAMIC オプションを付けて実行します。設定内容がスク립ト形式で表示されます。

SHOW CONFIG DYNAMIC ↓

DYNAMIC オプションにモジュール名を指定することにより、特定モジュールの設定だけを確認することもできます。例えば、VLAN の設定だけを確認するには次のように入力します。

SHOW CONFIG DYNAMIC=VLAN ↓

ご購入時の状態に戻す

すべての設定をご購入時の状態に戻すには、Boot 画面から操作を行います。設定ファイルが破損し、コマンドを受け付けなくなったような場合に行います。実行後、デフォルト値が存在する設定はすべてデフォルト値で起動します。

1. 電源ケーブルの抜き差し、リセットボタンを押すか、またはログイン中に RESTART コマンド（「システム」の 12 ページ）を実行して本製品を再起動します。自己診断チェック後、「Boot:」と表示されたら直後に [Enter] キーを押します。

```

RAM Test... OK
Flash Test... OK
NIC Test... OK
UART Test... OK

Boot: [Enter]

```

＼ 「Boot:」と表示されしばらくたつと、「Boot:」の右で記号が表示され始めます。この記号の表示が始まる前に [Enter] キーを押します。

2. 次の Boot 画面が表示されます。

```

Boot Program version 1.0.0 B00
Model: FS816S, MAC Address : 00941BA6B5B

Select an option
  R: RAM test
  F: Flash test
  N: NIC test
  U: UART test
  A: All of the above test
  C: Change continuous mode [Disable]

  T: Test all the range of RAM, and reboot

  B: Boot System Program
  X: XMODEM download
  D: Restore all configuration data to factory defaults

  M: Memory Dump
  Z: Change Terminal Speed
->

```

- d を入力し、ご購入時の状態に戻します。さらに現在の設定をすべて消去してよいかの確認メッセージが表示されますので、よければ [Y] を入力します。

```

-> d
  WARNING: This will erase all current configuration data! Continue ?
  (y/n) y
->

```

- b を入力し、Boot 画面を終了し、通常の管理画面に戻ります。

```

-> b

loading system program..\
login:

```

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

概要・基本設定	
SAVE	5
SHOW CONFIG	6

SAVE

カテゴリー：コンフィグレーション / 概要・基本設定

SAVE

解説

現在の設定内容（メモリー上の設定内容）を、起動時設定ファイルに保存する。起動時設定ファイルが存在しない場合、このコマンドを実行するとファイル「config.cfg」が作成される。

入力・出力・画面例

```
Manager > save  
  
Operation successful.
```

例

現在の設定内容を保存する

SAVE

SHOW CONFIG

カテゴリー：コンフィグレーション / 概要・基本設定

SHOW CONFIG [{DYNAMIC [=module-name] | ALL [=module-name] }]

module-name: 機能名。SYSTEM、CONSOLE、VLAN、SWITCH、TRUNK、MIRROR、IP、TELNET、TFTP、QOS、のいずれかを指定する

解説

起動時設定ファイル名を表示する。また、DYNAMIC オプションを指定した場合は、現在の設定内容（メモリー上の設定内容）を設定ファイルと同じ形式で表示する。ALL オプションを指定した場合は、初期設定も含めてすべて表示する。

パラメーター

DYNAMIC デフォルト値と異なる設定内容のみを表示する。指定しない場合、起動時設定ファイル名が表示される。module-name を指定した場合（例：SHOW CONFIG DYNAMIC=IP）は、デフォルト値と異なる該当モジュールの設定だけを表示する

ALL 初期設定を含めたすべての設定内容を表示する。module-name を指定した場合（例：SHOW CONFIG ALL=IP）は、該当モジュールの設定だけをすべて表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show config

Boot configuration file : config.cfg (exist)
Current configuration   : config.cfg

Manager > show config dynamic

#
# CONSOLE configuration
#
SET CONSOLE TIMEOUT=300

#
# VLAN configuration
#
CREATE VLAN=school VID=2 PORTPROTECTED
CREATE VLAN=white VID=10
ADD VLAN=white PORT=1-8 FRAME=UNTAGGED
ADD VLAN=white PORT=16 FRAME=TAGGED
```

```
#
# SWITCH configuration
#

#
# TRUNK configuration
#

--More--  (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

Boot configuration file	次回起動時に実行される設定ファイル名。ユーザー設定が保存されているときは、「config.cfg」(exist) されていないときは、「Not set」と表示される。
Current configuration	今回の起動時に実行された設定ファイル名。ユーザー保存設定で起動したときは「config.cfg」、工場出荷状態で起動したときは「None」と表示される。

表 1:

例

現在の、デフォルト値と異なる設定内容を表示する

```
SHOW CONFIG DYNAMIC
```

起動時設定ファイル名を表示する

```
SHOW CONFIG
```